

## 委員会視察報告書

委員会名	議会運営委員会・予算決算常任委員会
視察地	東京都豊島区議会
調査項目	議会改革の取組について
調査目的	議会改革度ランキング上位の豊島区議会における議会改革の先進的な取組について、その手法や効果等を調査し、本市議会における今後の議会改革の取組の参考とすることを目的に視察を行った。
日時	令和4（2022）年8月5日 午前9時～11時
場所	豊島区役所
調査概要	<p>豊島区人口 286,692人 議員36人 事務局13人  ・新庁舎は平成26（2014）年5月竣工  ・平成26（2014）年には破綻寸前の「消滅可能性都市」と言われ、また、23区内で唯一大学が無い区だったが、現在は3大学があり、人口・財政共にV字回復した経緯がある。</p> <p>(1) 議会改革検討会について</p> <p>ア 目的  議会運営の活動全般を調査研究し、議会改革に反映させることを目指して平成28（2016）年に取組を始めた。</p> <p>イ 会議体の位置づけ・役割  ・正副幹事長会の下部組織（任意の会議体）とした。  ・正副幹事長会の下命に基づき調査・検討し、正副幹事長に報告する。</p> <p>ウ 今期の検討会  改選があった令和元（2019）年5月31日の正副幹事長会において議会改革検討会を設置することが決定（来年改選年）</p> <p>エ 検討項目  正副幹事長会より下命された27の検討項目を協議</p> <p>オ 委員の構成  交渉会派から2名、それ以外1名を選任し、現在8人で協議中</p> <p>カ 実現した主な改革  ・会議資料のペーパーレス化  ・豊島区議会BCP（業務継続計画） その他</p>

調査概要	<p>キ 協議中の項目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・委員会ライブ中継の対象拡大について</li> <li>・AIを活用した音声自動文字起こしによる字幕表示について</li> </ul> <p>ク 今後の課題及び展開について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・字幕の導入や委員会ライブ中継の拡大、議場モニターの有効利用などは大きな費用となるため導入に当たっては費用対効果やシステム改修時に導入するなど時期を検討していく必要がある。</li> <li>・27の検討項目があり、協議に至らず積み残しとする課題が多く発生することが見込まれる。</li> <li>・検討会は期ごとに設置しているため、その期において検討項目を決める必要がある。</li> </ul> <p>ケ 区民の理解や評価について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・議会改革検討会において実現した改革は区議会だよりやホームページにおいて周知している。</li> <li>・協議の内容については、会議録を議会図書室で公開している。</li> </ul> <p>(2) 障がい者に配慮した議会体制</p> <p>ア これまでの経緯</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・障害者差別解消法（平成25年制定、28年4月1日施行）地方公共団体による「障害を理由とする差別」の禁止及び障害者に対する「合理的配慮」の提供義務が規定された。</li> <li>・平成28年11月18日の正副幹事長会において、「障害者に配慮した議会体制について」を議会改革検討会の検討項目として下命することが決定。</li> <li>・この下命を受け、平成29年2月8日の第1回から平成31年1月22日の第16回まで検討を重ね、正副幹事長会へ報告書を提出。</li> </ul> <p>イ 実施した主な内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全議員を対象とした勉強会の開催（H29.7.28）</li> <li>・点字による請願・陳情の受理（H29.9.20）</li> <li>・携行品に係る規定の改正（H29.9.20）</li> <li>・事務局窓口での携帯用磁気ループの活用（H29.9.27）</li> <li>・磁気ループの設置施設である旨の標示（H29.10.25）</li> <li>・障害者団体等当事者から意見を聴く機会の設定（H30.7.25）</li> <li>・議会施設見学会の実施</li> <li>・本会議における手話通訳の導入</li> </ul> <p>インターネット中継及び議場モニター、令和元年第3回定例会より開始</p>
------	--

## 調査概要



〈インターネット中継における手話通訳の様子〉

## (3) 音声認識システムについて

## ア 経緯

- ・速記者による逐語記録により会議録作成を行っていたが、作成日数がかかることが課題となっていた。(初稿の納品期日は、本会議で3週間後、委員会等で2週間後)
- ・平成24年1月に事業者(システム)を決定するための、プロポーザルを実施。
- ・平成24年2月の検討会において、音声認識システムの導入を検討・決定。

## イ 契約の概要

- ・株式会社アドバンスト・メディア(AmiVoice)
- ・ノートパソコン等の備品及びソフトウェア等の消耗品の購入として一括契約
- ・システム保守サポート(特命随契)

## ウ 運用について

- (ア) 会議の都度、音声認識PCを議場(委員会)システムに接続。
- (イ) 会議終了後、音声認識結果ファイル、音声ファイル、会議資料を速記会社へ渡す。(GIGAPOD(オンラインストレージ)にアップロード)
- (ウ) 速記会社が音声認識結果を校正した「粗稿」を事務局に納品。(原則として、送付日翌日から起算して5営業日まで)
- (エ) 納品された粗稿を、事務局職員が修文

## エ 導入の効果

- ・会議と同時に文字変換できるようになり、議員から会議録の要求があった場合、粗稿であれば会議後1週間程度で渡すことが可能になった。
- ・経費の削減と会議録のホームページ公開までの期間に一定の効果があった。

## オ 導入後の課題

- ・年4回のチューニング作業(保守)を精度の向上を踏まえ、年1回に変更。

- ・費用は90万円から36万円へ削減（税抜き）
- ・音声認識システムの導入により、以前より公開までの期間が短くなったが、議員からはさらなる短縮を求められている。
- ・粗稿が約1週間で納品されるが、納品後すぐに作業に取りかかり、公開までの期間をさらに短縮するには、人員が必要である。

#### (4) 議会事務局体制の強化

##### ア 組織及び分掌事務

23年度	主な分掌事務
総務G	秘書、庶務、調査、予算
議事G	議事、請願陳情、議会広報
委員会G	議事、請願陳情



24年度	主な分掌事務
総務G	議長秘書、庶務
議事G	議事、請願陳情
政策調査G	調査、議会広報、議会改革
議会施設G	予算、決算、議会施設

##### イ グループ編成の考え

###### (ア) 新規課題（議会改革・議会施設等）検討への対応

- ・調査能力向上と政策調査グループ・議会施設グループの新設。標準定数条例により事務局員の増員は認められない状況となっているためグループ分けによる効率化を図った。

###### (イ) 議事運営知識の蓄積と共有を可能とするジョブ・ローテーション

- ・委員会グループと議事グループの統合。全庁的な改革の一環となるが中間管理職の横のつながりが非常に大切なものになった。

###### (ウ) 人材育成の強化

- ・専門能力の向上

視察の様子



	
<p>質 疑 応 答</p>	<p><b>質問</b> 請願陳情が毎回20件以上あるが全て審査の状況は？</p> <p><b>回答</b> 請願陳情の扱いはなじまない案件以外はすべて受付している。これだけで事務局体制を変えた訳ではないが全て委員会に付託し本会議で審議している。区議会では区民以外でも郵送でも所定事項が記載されていれば同じ扱いになる。</p> <p><b>質問</b> 自治体で事務局の仕事が増えているのはどこも同じと思うがグループ制は全庁的なものか？</p> <p><b>回答</b> すべての組織においてグループ制を執っている。</p> <p><b>質問</b> 障がい者に配慮した議会体制は障者差別解消法によることから来ているのか？</p> <p><b>回答</b> 前期に検討してきている4つの案件の中の一つに障がい者対応の議会体制があり、差別解消法がきっかけになり採用したのは間違いない。議場内モニター4台すべてに手話通訳を映し出す件は聴覚障がい者団体からの要望で採用している。点字による請願陳情も同様。</p> <p><b>質問</b> 議場モニターの今後の課題はあるのか？</p> <p><b>回答</b> 議員の中からは正しく通訳してもらっているのかなどの意見もあるが検証できないためどうするか論点になっている。手話だけでなくモニター字幕も検討中となっている。</p> <p><b>質問</b> 新庁舎になり、何か問題・課題はあるのか？</p> <p><b>回答</b> 障がい者の立場になって議場を見る勉強会を行ったが傍聴席からの視線と手すりが重なっていた。車椅子の議員がいる場合、議場内の導線に段差があったり通路が狭かったり演台が高いなどの意見をいただいている。9階に事務局、8階</p>

に議場があるため管理が大変。

**質問** 議会基本条例がまだないが、今後検討する予定はあるのか？

**回答** 策定に向け議員からは意見は出ているが策定には至っていない。区としては自治基本条例がある中で議会の役割など規定されている。議員向けの基本条例は検討している。

**質問** 区民への広報活動の中で意見収集・意見交換会などは検討されているのか？

**回答** 今のところ検討していない。

**質問** 事務局員の人数は？ 係体制からグループ制となったメリットは？

**回答** 人員は総数13名、定数条例で決まっているため標準定数は増やせない状況となっている。1999年に赤字解消の下、職員を3,000人から2,000人に減らした、グループ制を執らざるを得ない状況となった。しかし人口は増えているが業務は回っていることがメリット。課を超えた人材活用はまだ行っていない。

**質問** 委員会のライブ中継の拡大は常任委員会の他にどのようなものを考えているのか？AIを活用した音声文字起こしの検討結果は？（生中継では難しいのでは？）

**回答** 現状では本会議・予算決算特別委員会の3つの会議体、これにシステム入替え時に4つの常任委員会、5つの特別委員会を加えたい。字幕についても同じくシステム入替え時に墨田区が導入している音声文字起こしシステム（NTTディスプレイビジョンスマート）を導入したいと考えている。議員からも積極的な意見があった（要代理店契約、非常に高額とのこと）。

**質問** オンラインを活用した委員会の範囲について。会議体の中に議会運営委員会が入っているのか、オンライン視察は実現したのか？これらに対し課題等があったか？

**回答** 常任委員会・特別委員会があって委員会条例の改正に伴い議会運営委員会もオンラインでできるようになった。委員会条例改正以外にも内部規定でできるようにしたのが、議員協議会、議会改革検討会、議会報告会実行委員会等で、議会BCPの中で議員災害対策会議もオンラインできるようになった。常任委員会、特別委員会は採決まで行っている。課題としては各議員の使用のIpadの音声聞きづらいため事務局で改善方法を探している。オンライン視察も枚方市、和光

	<p>市などが実施した。</p> <p><b>質問</b> 音声認証の精度はどのくらいか？柏崎市は70%くらいだった。</p> <p><b>回答</b> プロポーザルで一番精度の高いところにした。</p>																																																																															
<p>委員所感 (50音順)</p>	<p><b>【秋間委員】</b></p> <p>職員が2,000人とのことだったが建物も新しく通路が広く天井が高いことは訪問しても感じが良かった。</p> <p>音声認識システム導入を平成24(2012)年に決定しているが、10年前の初期投資5,768千円は今ではかなりコストダウンされているのではないかと感じた、加えて導入後の課題もあり、議員から正確に通訳されているのかなど指摘もあり、モニターへの字幕表示についてもまだまだ検討課題が多いと感じた。柏崎市議会が今回見送ったのは賢明な判断だったのでないかと感じた。(下記参照)</p> <p>墨田区は事務局の提案制度だったが、豊島区は人材活用の観点からグループ制を導入している。柏崎市議会事務局も充実された人員数ではないと感じているが、柏崎市定員管理計画で人材はそんなに増やせない状況ではもう少し頭をひねる必要があると考える。</p> <p><b>【導入の効果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 会議と同時に文字変換できるようになり、議員から会議録の要求があった場合、粗稿であれば会議後1週間程度で渡すことが可能になった。</li> <li>■ 経費の削減と会議録のHP公開までの期間に一定の効果があった。</li> </ul> <p>・ 初期費用：備品購入費3,146千円、消耗品費2,621千円、合計約5,768千円。</p> <table border="1" data-bbox="464 1384 1348 1653"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="4">継続費用(決算額:千円) (千円未満切捨て)</th> <th colspan="2">HP公開までの 平均日数</th> <th colspan="3">会議時間(時間:分) (年ベース)</th> </tr> <tr> <th>本会議</th> <th>委員会</th> <th>保守</th> <th>合計</th> <th>本会議</th> <th>委員会</th> <th>本会議</th> <th>委員会</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>22年度</td> <td>1,331</td> <td>5,927</td> <td>0</td> <td>7,258</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>23年度</td> <td>1,617</td> <td>5,924</td> <td>0</td> <td>7,541</td> <td>253日</td> <td>76日</td> <td>55:40</td> <td>297:38</td> <td>353:18</td> </tr> <tr> <td>24年度</td> <td>621</td> <td>4,197</td> <td>945</td> <td>5,763</td> <td>112日</td> <td>60日</td> <td>56:22</td> <td>307:22</td> <td>363:44</td> </tr> <tr> <td>25年度</td> <td>768</td> <td>4,717</td> <td>945</td> <td>6,431</td> <td>162日</td> <td>58日</td> <td>55:40</td> <td>324:25</td> <td>380:05</td> </tr> <tr> <td>26年度</td> <td>810</td> <td>4,446</td> <td>972</td> <td>6,228</td> <td>186日</td> <td>49日</td> <td>60:06</td> <td>339:27</td> <td>399:33</td> </tr> <tr> <td>27年度</td> <td>862</td> <td>4,694</td> <td>972</td> <td>6,529</td> <td>170日</td> <td>68日</td> <td>65:20</td> <td>343:19</td> <td>408:39</td> </tr> </tbody> </table> <p><b>【阿部委員】</b></p> <p>議会改革の取組として、障がい者に配慮した議会体制を進め、その一つに本会議での所信表明等や一般質問で手話通訳を実施しており、見習う点がありましたが、一般質問では全文原稿を事前提出しなければならないなど、論議できない課題があるように感じられました。また、既にコロナ禍におけるオンライン視察を実施するなど、迅速な対応を行っていま</p>	区分	継続費用(決算額:千円) (千円未満切捨て)				HP公開までの 平均日数		会議時間(時間:分) (年ベース)			本会議	委員会	保守	合計	本会議	委員会	本会議	委員会	合計	22年度	1,331	5,927	0	7,258	-	-	-	-	-	23年度	1,617	5,924	0	7,541	253日	76日	55:40	297:38	353:18	24年度	621	4,197	945	5,763	112日	60日	56:22	307:22	363:44	25年度	768	4,717	945	6,431	162日	58日	55:40	324:25	380:05	26年度	810	4,446	972	6,228	186日	49日	60:06	339:27	399:33	27年度	862	4,694	972	6,529	170日	68日	65:20	343:19	408:39
区分	継続費用(決算額:千円) (千円未満切捨て)				HP公開までの 平均日数		会議時間(時間:分) (年ベース)																																																																									
	本会議	委員会	保守	合計	本会議	委員会	本会議	委員会	合計																																																																							
22年度	1,331	5,927	0	7,258	-	-	-	-	-																																																																							
23年度	1,617	5,924	0	7,541	253日	76日	55:40	297:38	353:18																																																																							
24年度	621	4,197	945	5,763	112日	60日	56:22	307:22	363:44																																																																							
25年度	768	4,717	945	6,431	162日	58日	55:40	324:25	380:05																																																																							
26年度	810	4,446	972	6,228	186日	49日	60:06	339:27	399:33																																																																							
27年度	862	4,694	972	6,529	170日	68日	65:20	343:19	408:39																																																																							

した。

**【笠原委員】**

議会改革検討会として、障がい者に配慮した議会体制として、全議員を対象とした勉強会を実施し取り組まれた。障がい者に対し、インターネット中継や議場モニターにおいての手話通訳の導入、モニターは4台あり傍聴席から確認できるようになっている。柏崎市としても障がい者に対する配慮は必要である。

音声認識システムについては、議会事務局職員の負担軽減や経費削減、議員にとっても会議録を早く活用できる。システムの導入により以前より公開までの時間は短縮されたが、議員からはさらなる短縮を求められているそうである。議員からの声が聞きたかったところである。柏崎市で音声認識システムの研修があったが、方言やなまりをどう解決できるかが課題だと思ったが、豊島区ではほとんど問題はないとのことであった。

**【佐藤和典議会運営委員長】**

障害者に配慮した議会体制については、柏崎市議会が今後、さらに市民に対し開かれた議会となるためには必要な改革であると考え。柏崎市に足りない部分は随時検討していく必要がある。会議録作成のための音声認識システム導入は、今後考えていかないといけないが、速記者が作成していた墨田区と違い柏崎市は既に外注に出しているため、金銭的効果が表れてこない。しかし、音声認識システムの進化が目まぐるしく、日々性能が上がっているため、今後も研究を続けることは重要である。

また、豊島区役所全体でグループ制を採用していることに合わせて、議会事務局でも同様にグループ制を採用している。実際には知識の蓄積や情報の共有は、職員間で行っているものと思うが、制度となるとそこがしっかりしたものとなる。今後、職員数が減少していく中では参考にする制度であると考え。

**【佐藤正典委員】**

議会改革検討会を立ち上げて取り組んだ大きな成果としては、障がい者に配慮した体制と、会議録作成にかかる音声認識システムの導入である。障がい者への配慮は、柏崎市議会が今後さらに開かれた議会を目指す上でも必要な改革であり、また、会議録作成のためのシステム導入は、議会事務局



の負担を大幅に減らし、加えて、タイムリーに市民に議会の動きを知らせることができる。豊島区を取組を今後の参考にしたい。

ほかには、議会事務局体制の強化について特徴的な取組があった。豊島区役所全体でグループ制を採用していることに合わせて、議会事務局でも同様にグループ制を採用し、課や係といった体制に拘らない、横断的な業務の在り方を追求している。業務が増えているが職員数は増やせないというどこの自治体でも抱える課題に対応しているものであり、参考になった。

#### 【重野委員】

議会改革検討会を設置し、様々な改革に取り組んでいる。柏崎市議会ではICT委員会や諮問委員会などを立ち上げ、個別に取り組んでいることであるが、柏崎で進めようとしていることの必要性や大切さが実感できた。現状にとどまらずに、より効率的に、より市民に開かれた議会を目指していくための視点もいただけた。その中でも障害者に配慮した議会として、手話通訳者をモニターに映したり、音声認識システムを導入するなど、誰に対してもきめ細やかに対応していけるように環境を整備するところは、柏崎市議会としての進む方向ではないかと思い、参考にしたい。

#### 【白川委員】

「議会改革検討会」の役割と「豊島区議会BCP(業務継続計画)」の策定に着目した。地震や台風などの大規模災害が発生した場合でも、議会活動を止めることなく業務を継続するとともに、議会として二元代表制の趣旨に則り、議事・議決機関、住民代表機関として、住民の安全確保と災害復旧に向け、迅速かつ適切な災害対策活動ができるよう議会BCP(業務継続計画)を令和3年9月に策定している。策定においては「議会改革検討会」における複数回の協議と講師を招聘した議員研修会を開催するなど全議員の危機管理意識の醸成が不可欠だったと感じた。多様な考えを持つメンバーをうまく巻き込み、議員一丸となり条例などを策定していく際の大きなヒントとして活用していきたい。

#### 【田邊委員】

豊島区役所では議会改革の取組について視察を行った。

豊島区議会では「障害者差別解消法」の制定をきっかけに障害者に配慮した議会体制としている。全議員を対象とした

勉強会や、事務局窓口における磁器ループの導入、点字による請願・陳情の受理や本会議における手話通訳を行うなど様々な取組が行われていることが理解できた。

本市でも障害者に配慮した取組を行ってはいるが、検討しなければならない取組もあるため、しっかりと調査研究し、今後につなげていきたい。

#### 【布施委員】

議会改革の取組について、障がい者に配慮した議会体制ということで、議員全員で勉強会を開催したりするなど障害者に配慮のある議会らしく参考になりました。また、点字による請願陳情の受理等先進的な議会であることが伺えました。

豊島区議会で最も参考となったのは音声認識システムでありました。このことは全国どこの自治体も文字起こしや内容の再確認について、議員や最も大変な議会事務局職員の負担減に大きく貢献するものと考えられるため非常に参考になりました。

今後DXやICTの発達によりさらなる進化が見受けられるかもしれませんが、現状での音声認識については非常に参考になりましたし、当市においても参考になるものと思われました。

#### 【星野正仁予算決算常任委員長】

議会改革について視察しました。まず事前に出されていた五つの質問項目について説明を受けました。その中で特に障がい者に配慮した議会体制について所感を述べます。障がい者に配慮した議会体制導入のきっかけ。検討期間と会議数の状況。報告書提出から整備までの状況。その中でとくに本会議場における手話通訳の導入「インターネット中継及び議場モニター」が令和元年3回例会より開始されました。とても先進的な取組と感心しました。この費用はどれ位掛かるのかお聞きしたら年間約90万円かかっているとのことでした。豊島区では今後字幕表示（既に墨田区で導入されている）の導入に向けて取り組んでいます。豊島区での先進的取組をさらに研究し、柏崎市議会の議会改革に活かしていきたいと思えます。

#### 【村田委員】

議会改革の取組について、障がい者に配慮した議会体制ということで、議員全員で勉強会を開催したりするなど障害者に配慮のある議会らしく参考になりました。また、点字によ

る請願陳情の受理等先進的な議会であることが伺えました。

豊島区議会でも参考となったのは音声認識システムでありました。このことは全国どこの自治体も文字起こしや内容の再確認について、議員や最も大変な議会事務局職員の負担減に大きく貢献するものと考えられるため非常に参考になりました。

今後DXやICTの発達によりさらなる進化が見受けられるかもしれませんが、現状での音声認識については非常に参考になりましたし、当市においても参考になるものと思われました。

#### 【持田予算決算常任副委員長】

議会改革では、私たちの取組と同等なのではないか。議会図書室の充実は先進的である。私たちの今後の検討となっている障がい者に配慮したシステムづくりを学ぶなか、議会としてユニバーサル・デザインの推進が求められる。

#### 【山本委員】

今回、豊島区議会の議会改革の取組について学ぶことができた。特に議会事務局体制の強化については、議員定数36人（現在4人欠員）に対して事務局体制（総員13名）で、以前は委員会グループと議事グループだったものを統合し、新規課題である議会改革と議会施設等へ対応するためのグループ体制で強化を図っていた。

また、障がい者に配慮した議会体制を行っている点については2017年から点字による請願や陳情の受理、事務局受付での携帯用磁気ループの活用などの取組は大変参考になった。

そして、音声認識システムについては、経費削減と会議録の早期の公開につなげていた（現在、柏崎市議会でも検討中である）。

今回、豊島区議会の取り組みで学んだことを柏崎市議会でも活かしたい。

#### 【若井委員】

障害者差別解消法の制定をきっかけに、豊島区議会においては障がい者に配慮した体制に取り組んでいる。全議員を対象にまずは勉強会を行い、点字による請願・陳情の受理や携行品にかかる規定の改正、事務局窓口での携帯用磁気ループの活用などハード、ソフト両面からの取組を行っている。そして何より特筆すべきは当事者団体からの意見徴収のみでな

	<p>く議会施設を直接見学していただき、意見をいただいている。障がい者に対する合理的配慮に対して、本市議会もしっかりと取り組んでいかなければいけない。</p> <p>また、音声認識システムの導入は障がい者のみならず、すべての市民の利便性の向上につながると感じる。ぜひ本市においても導入に向けて取り組んでいくべきである。</p>
--	---